

# 来週の「売り物」記事はこれ



2011年6月24日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 東日本大震災暮らしどうなる・被災地のハエ対策

くらしナビA面 28日(火)

被災地では梅雨に入り、ハエが大量発生して、被災者たちを悩ませています。特に食中毒菌を媒介しやすい「イエバエ」が急増しており、感染症のリスクも高まっているとされます。被災地の現状を報告すると同時に、専門家に駆除方法などを詳しく聞きました。



## 「しあわせ運べるように」CD化へ

くらしナビA面 30日(木)



阪神大震災当時、神戸市の音楽教師、白井真さん＝写真＝が作った歌「しあわせ運べるように」がCDブックに収められ出版されることになりました。東日本大震災の被災者を応援するため、収録には被災地の中学生が参加。白井さんに歌への思いを語ってもらいました。

## クールな着こなし

くらしナビB面 30日(木)

着こなし面から涼しく過ごす方法をご紹介します。ポイントは皮膚の熱を外に逃がすこと。ゆったりしたチュニックやワンピースなど風を通す服がお勧めですが、うまく着こなすのは意外と難しいです。そんな服をいかにおしゃれに着るか。専門家に教えてもらいます。



## 第66期本因坊戦七番勝負 第5局 29、30日

第66期本因坊戦七番勝負第5局が29、30の両日、三重県鳥羽市の旅館「戸田家」で行われます。

初防衛をかけた本因坊道吾(どうわ)＝山下敬吾九段＝写真右＝に、3度目の本因坊を目指す羽根直樹九段＝同左＝が挑戦。道吾は開幕から3連勝し、一気に決着かと思われました。しかしそうはさせじと第4局は、羽根が接戦を制して1勝を返しました。

これまでの対戦の相性では道吾が優位に立っています。でも、大一番は分かりません。攻めの道吾がここでタイトルを手中にするのか、シノギの羽根がもう一つ待ったをかけるか。山場を迎えます。



## 「インサイド」第1部

### 青木功のゴルフ人生——世界と戦ったパイオニアの実像を描く

運動面 28 日から連載



若武者、石川遼選手の登場で活気を帯びているのが日本の男子プロゴルフ。その石川選手よりもずっと早い時代に、海外で強豪に勝負を挑み、成功を収めたゴルファーが青木功さん＝写真＝でした。日本人として初めて米男子プロツアーに優勝し、全米オープンでジャック・ニコラスと死闘を繰り広げた名選手。その独特の理論とパイオニア精神を、運動面の「インサイド」で長期連載します。28 日からの第1部は、石川選手とのかかわりなど、「世界の青木」のゴルフ観を描きます。

## スポーツ政策の変遷をたどる——

特集「スポーツ百年 現在・過去・未来」

28 日掲載

国のスポーツ振興の根幹となる「スポーツ基本法」が国会で成立しました。これまでのスポーツ振興法を半世紀ぶりに全面改正した法律です。毎月第4火曜日に掲載している特集「スポーツ100年 現在・過去・未来」では、戦前戦後を経てのスポーツ政策の歴史をたどりながら、これからの日本スポーツのあるべき姿を考えます。28日朝刊に掲載。



## 山本太郎さんに、文太兄いまで……芸能人が続々

### 「私たちが『脱原発』を訴えるワケ」

ザ・特集 30日(木)



未曾有（みぞう）の悲劇を予感させる福島第1原子力発電所の事故。若手人気タレントの山本太郎さんが反原発の立場を明確にするなかで、所属事務所を退社しことは大きな話題になりました。これまで日本の芸能界では原発の是非を論じることはタブーと思われていたからです。ところが、山本さんに続けとばかりに、福島出身の西田敏行さんが「原発ノー」と声を上げ、「仁義なき戦い」で知られる菅原文太さんまでが「あとがないじゃ、あとが……」とばかりに「脱原発」を訴えています。“想定外”のメルトダウンは芸能界をも変えたようです。その周辺を探りました。

“知りたいが分かる”がモットーの木曜日朝刊の「ザ・特集」に、ご期待下さい。

## 連載企画「パパ、どうしてドイツは…… 『脱原発』の風景」

夕刊で

福島第1原発事故を受け「脱原発」にかじを切ったドイツ。来週夕刊の連載企画「パパ、どうしてドイツは…… 『脱原発』の風景」で、生活目線でみたこの国の「脱原発」風景を描きます。筆者はベルリン支局着任早々の篠田航一記者。4歳の娘が発する「素朴な疑問」を切り口に、「ドイツの街はどうしてこんなに暗いのか」「日曜にほとんどの店が閉まる背景は」、などの問いに答えながらドイツ人のライフスタイルを紹介します。



ミュルハイム・ケーリヒ原発

## 中国共産党 90 周年



中国共産党は7月1日に90周年を迎えます。人口13億人の大国を独裁体制で支配する共産党。中国を世界第2位の経済大国に押し上げる原動力となりました。その一方、中国は格差や少数民族など多くの課題を抱え、デモも頻発するなど、必ずしも安定しているとはいえません。来年には国家主席の地位が胡錦濤氏から習近平氏に引き継がれる見通し。このため、共産党にとって今年の後継事業の仕上げの年と言えます。

紙面事情などにより掲載日が変更になることがあります。